

(様式3)

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立出来島小学校 学校協議会

1 総括についての評価

学校の落ち着きや、児童の学力・体力について一定の向上が図られたことは、よい傾向にあるというご意見が多かった。一方、時代とともに、価値観が多様化し、様々なニーズも出てきた。また、海外にルーツがある児童も増えたことから、望ましい生活習慣や家庭学習の習慣づけなど保護者への啓発や、さらなる教員の指導力の向上が求められることをご理解いただいた。

教職員の長時間勤務が解消され、一定の働き方改革の成果がみられたが、先述のような新たな課題も出てきている。それらと向き合うの時間確保のためにも、「教員の働き方改革」に対する理解を求め、授業時数の削減や地域や区役所など学校の外からの支援の必要性についてご理解を得ることができた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標： 小学校学力経年調査（3～6年）および児童アンケート（1～2年）における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。（全市・学校園とも）

全学年において、学校行事や学級活動・学習活動など学校生活の様々な場面において、励ましたり褒めたりする個々に応じた声掛けを行ってきた。結果として、1・2年生の児童アンケートの結果100%と達成できているが、3～6年生の小学校学力経年調査の結果では71%と達成には至らなかった。学校のこれまでの取組は児童の落ち着きから、評価できるが、保護者もあまり褒めていないというアンケートの結果であったため、地域も含めてみんなで子どもを認めていこうとご意見をいただいた。

年度目標：児童アンケート「日々の授業の中で、学習者用端末を活用している」の項目で、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を50%以上にする。（全市・学校園とも）

日々の授業の中で学習用端末を効果的に活用することができるよう、教材や単元に合った使用法を研究し、それらを使った取組を行うことができた。その結果、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が年間授業日の77.6%と目標を大きく上回り、その成果が見られつつあることを評価された。

3 今後の学校園の運営についての意見

今後も子どもたちを地域の方々と連携しながら育んでいくことの大切さを共有した。特に学校協議会はそのためには大切な場であり、行事の変更・2学期制への転換・PTA活動の終了や「学校安心安全ルール」「エビデンスベースの学校改革」などの学校の新しい取組など、現状が聞けて良かった。今後も情報を発信してほしいとのご意見が多かった。